



刈谷の ★輝く人



刈谷ですてきな活動をしている人をご紹介します！

300年以上の歴史を誇る市無形民俗文化財

「雨乞いを踊っていた昔の人の思いをしっかりと伝えていきたい」と話すのは、野田雨乞笠おどり保存会会長の坂田さん。野田雨乞笠おどりは、農民の切実な雨への願いと感謝を表す奉納神事です。2人1組の踊り手が太鼓を中に向かい合い、両手に「つつろ」と呼ばれる短いバチを持ち、雨乞唄とほら貝、財払いに合わせて太鼓を打ちながら踊ります。1712年に野田八幡宮で雨乞いの祈願が行われた記録が残っており、これが野田雨乞笠おどりの始まりとされています。

戦争で中断した雨乞いの復活

長きにわたって踊り続けられた伝統文化も、太平洋戦争をきっかけに中断してしまいました。しかし、坂田さんが野田青年団の団長を務めていたころ、市から野田に伝わる伝統文化を紹介されたことがありました。その時「地元の文化を絶やさず大切にしたい」と思い、中断前に踊っていた人から指導を受け、1979年に地区と協力して踊りを復活させました。翌年には保存会を結成し、坂田さんも立ち上げのメンバーの1人となりました。

踊りは大きく分けて「三拍子」「ささら」「綾」という3つがあります。それぞれの踊りには複数の歌詞があり、祈願や感謝など場面に応じて歌い分けています。「もともと口頭で伝承されてきた文化。今でこそ歌詞の本があるが、それも耳で聴いた歌詞を文字起こししたもの。だから歌詞の意味を自分たちで解釈して歌って踊っている」と話します。

若い世代への継承

毎年7月の終わりごろから地元の子どもたちに雨乞いを教えており、「今年も多くの子に参加してもらっている。お祭りに出てくれた子たちが『楽しかった』『また来年もやりたい』と言ってくるとすごくうれしい」と笑顔で話す坂田さん。さらに「ここまで長くやっていると、昔教えた子が大人になって、子どもを連れて雨乞いに参加してくれることもある。1つの文化継承の形だと思う」と胸を張ります。

「少しでも長く野田の雨乞いという文化が続いてほしい。これからも子どもをはじめ、学生くらいの若い世代への継承も意識していきたい」と今後の目標を語る坂田さん。地元の伝統文化を守るため、坂田さんの活動はこれからも続きます。



野田雨乞笠おどり保存会 会長
さかた こうじ
坂田 幸司さん

プロフィール

第7代目の会長で、就任5年目。朝日小での伝統文化出張講座をはじめとした普及活動に尽力。

◆野田雨乞笠おどり大会

時 8月24日(日) 16時 場 野田八幡宮



★輝く人の原動力！

子どもたちとの触れ合い

保存会の人みんな子どもが好き。雨乞いを教えながら、パワーをもらっています。



各地で雨乞いを披露

全国各地の伝統文化イベントに招待されることもあります。かつては姉妹都市のカナダ・ミササガ市で披露したことも。



▲ミササガ市での披露時の写真